

THE NIKKEI MAGAZINE

L U X E

日経マガジン 15 MARCH 2026



SPRING FASHION

CHANEL

In The Greatest Strength Lies Softness

揺るぎない強さの中に宿る、しなやかさ

キャリバー 12.1の強さの秘密、それは妥協を許さぬ堅牢性にあります。しかし、J12の完璧な精度を保証するのは、秒針のなめらかな動きです。ケースバック越しに姿を見せる真円のローターと丁寧に組み立てられた191個の精密な部品が、キャリバー 12.1の傑出した性能を映し出し、シャネルのウォッチメイキングの卓越性を控えめに、そして力強く体現します。

 **CO** COSC*によるクロノメーター認定
 **SC** *スイス公認クロノメーター検定協会

J12





BOTTEGA VENETA



STRASBURGO

GINZA / MINAMI AOYAMA / TOKYO MIDTOWN
FUTAKOTAMAGAWA / NAGOYA
OSAKA / HANKYU UEDA

STRASBURGO.CO.JP

THE NIKKEI MAGAZINE LUXE

日経マガジン広告特集号

15 MAR. 2026

SPRING FASHION

CONTENTS

8

BEAUTY NEWS

HERMÈS

QUIET REFINEMENT

洗練の美学を貫く
新ベースメイクコレクション

9

FASHION NEWS

BOTTEGA VENETA

A NEW CHAPTER
BEGINS

伝統と革新が拓く
ボッテガ・ヴェネタの新章

10

BEAUTY NEWS

CLARINS

SKIN AUTHORITY

究極の美容液ファンデーションが
ついに完成

11

BEAUTY NEWS

AVEDA

NEO-REJUVENATION

植物のパイオニアが挑んだ
次世代スキンケア

12

BACCARAT

LIGHT UP YOUR LIFE

煌めくギフトに思いを託して

16

CULTURE NEWS

KYOTOGRAPHIE 2026

日本最大規模の国際写真祭
KYOTOGRAPHIE 2026が開幕

17

CHANEL

SHARE

THE MOMENT

トップランナーが対峙する時間

29

FASHION NEWS

FPM MILANO

FPM MILANO &
GLOBE-TROTTER

英国とイタリアを目指す
スペシャルラゲッジが登場

30

FASHION

NEW AGE

NEW STAGE

新しい風を纏って

36

WAKO × ASHOKA®

ETERNAL

TALISMAN

日常を輝かせるお守りジュエリー、
アショカダイヤモンド

38

REDEFINING
BAGS & SHOES

マイスタイルにプラスする
春のバッグ&シューズ

40

TRAVEL

TIME TO RECHARGE

心潤う、春のウェルネスステイ

COVER

Photograph: Yusuke Miyazaki (SEPT)

Styling: Miyuki Uesugi (sense of humour)

Hair: Kenichi (sense of humour)

Make-up: Yumi Endo (eight peace)

Model: Valeria Buldini (Donna)

Realization: Shiho Amano

Direction: Kaori Takagiwa

企画・製作 日本経済新聞社

堀内美和 THE NIKKEI MAGAZINE 発行人

編集 高際香里 THE NIKKEI MAGAZINE Director

デザイン 鬼頭敦子 山本桂 三嶋佑花

※本特集に掲載した商品の価格は、2026年2月26日現在のものです。すべて消費税を含んだ価格です。為替変動などの理由で告知なく価格が改定されたり、仕様が変更されることもあります。またメーカー側の都合により、品切れや販売中止となる場合があります。予めご了承ください。

※特集記事で使用している略号は以下のとおりです。YG(イエローゴールド)、WG(ホワイトゴールド)、PG(ピンクゴールド)、RG(ローズゴールド)、BG(ベージュゴールド)、PT(プラチナ)、SS(ステンレススチール)、H(高さ)、W(幅)、D(奥行き)



トップス 320,000円、イヤリング 72,000円/ともにディオール ㊟ クリスチャン ディオール Tel 0120-02-1947

HERMÈS QUIET REFINEMENT

洗練の美学を貫く新ベースメイクコレクション

エルメス ビューティに待望のリキッドファンデーションが加わった。クラフツマンシップを軸とした実用性が洗練を生み、やがてエレガンスへと昇華する—そんなエルメス流美学は、今回の新作においても貫かれている。

Photograph: Fumito Shibasaki (Donna) Text: Yumiko Kizu Direction: Kaori Takagiwa

エルメス ビューティが他のコスメと一線を画す理由は、まずその“佇まい”にある。新しく誕生した「エルメス ブラン エア フォンドゥタン ソワン」にも、いつもながらの息を呑むようなエレガントな美しさが漂う。

エルメス ビューティ部門クリエイティブ・ディレクターのグレゴリス・ビルピリスが手がけた全34色は、ライト/ミディアムライト/ミディアム/ミディアムディープ/ディープの5段階の明るさと、クール/ニュートラル/ウォームの3種のアンダートーンを掛け合わせて繊細なグラデーションを描き出す。その美しさを際立たせているのが、ジュエリー部門クリエイティブ・ディレクターのピエール・アルディによるボトルデザインだ。今回もまた円と四角、ガラスと金属を組み合わせ、パウハウスの美学を感じさせるミニマルな佇まいに仕上げている。

さらにアルディはエルメスのエスプリにふさわしい美のしぐさを生み出すツールとして、新たなオブジェを制作。画家のパレットのごとくりキッドをブレンドするためのメタルパレットとアプリケーターで、自分仕様のカラーや質感に調整することが可能だ。

ホワイトマルベリーエキス^{※1}などの天然由来成分と、ナイアシンアミド^{※1}やピュアヒアルロン酸^{※1}などのスキンケア成分をバランスよく配合したリキッドはなめらかに伸び、ルミナスマットな仕上がりが肌本来のツヤを絶妙に引き立てる^{※2}。春の訪れとともに肌も軽やかにアップデート^{※2}しよう。

※1 保湿成分 ※2 メーキャップ効果による

左から、全34色のうちディープカラーを中心とした19色はオンラインブティックのみの販売。「エルメス ブラン エア フォンドゥタン ソワン」全34色 33ml 19,800円、密度が高く肌あたりのしなやかな筆先は馬の蹄を思わせる斜めカット。ファンデーションを吸収することなく肌に心地よくフィットして均一に塗布できる。「レバンソー エルメス ル ベルフェクトール」19,580円、ツヤ消しゴールドのプレートはアクセサリトレイとしても使いたい。「エルメス ブラン エア レウティドゥタン シュール-メジュール」35,200円/すべてエルメス



BOTTEGA VENETA A NEW CHAPTER BEGINS

伝統と革新が拓く ボッテガ・ヴェネタの新章

クリエイティブ・ディレクター、ルイーダ・トロッターが就任し、新たな幕を開けたボッテガ・ヴェネタ。ブランドのヘリテージであるクラフツマンシップと現代的な感性を融合したラインナップに、期待と注目が集まる。

Text: Mika Koyanagi

昨年9月にミラノで発表された、新クリエイティブ・ディレクター、ルイーダ・トロッターによるデビューコレクション「Summer 2026」。さまざまなブランドで経験を積んだ彼女が手がける本コレクションは、ボッテガ・ヴェネタと深い関係を築いてきたヴェネチア、NY、ミラノの3都市がインスピレーション源。卓越した職人技を軸に、ブランドの原点へと立ち返ったルックは、喝采とともに歓迎された。デザインの核であるイントレチャートをジャケットのラベルにあらわし、昔ながらの技法を現代的なフォルムやサステナブルな素材へ落とし込むなど、フレッシュ&モダンにアップデートされている。また、テラリングは、イタリアの伝統的なサルトリアをベースに、アイコンバッグ「カバ」から着想を得たデザインに仕上げ、構築的でありながら、軽やかなムードをまとう。クラフツマンシップと革新性が共存するレディ・トゥウェアは、素材と着心地の良さが同時に味わえる、現代女性のための心強いパートナーとなるはず。

今季らしさが詰まったキーピース

肩をマークしたオーバーサイズのジャケット。ラベルには精緻なイントレチャートがあしらわれ、ブランドを象徴するデザインコードが光る。しっかりとした生地のため、ルーズすぎずスマートなシルエットに。ワイドレッグのスポーティなパンツとコーディネートし、肩肘を張らない、絶妙なリラククス加減を楽しみたい。ジャケット839,300円、パンツ300,300円/ともにボッテガ・ヴェネタ



上品さ機能美を体現するニューフェイス

ルイーダ・トロッターが初コレクションのために手がけた新作。無駄を削ぎ落としたフォルムと洗練された美しさが、控えめなエレガンスを物語る。バッグのボディにはスクエアパネルを使用し、ソフトな手触りとかつちりとした形状が楽しめる。2枚の折りたたむためのパネルを設け、荷物を整理しやすいため、ビジネスシーンでも活躍しよう。ポップアップと公式オンラインサイトで先行発売。バッグ「ラーズ パーバ」(H31 × W42.2 × D27.4cm) 1,155,000円/ボッテガ・ヴェネタ



時間と手間を惜しみなく捧げた新シルエット

イタリア語で波を意味する名を冠した、クラッチバッグ「オンダ」。有機的な曲線とブランドが得意とする編みの技術が融合した、ユニークなデザインだ。幅約1cmのレザーをすべて手作業で編み込み、クラフツマンシップが冴える逸品。ポップアップ限定販売。左上から時計回りに、バッグ「スモール オンダ」(H15 × W40 × D15cm) 1,133,000円 「スモール オンダ」(H15 × W40 × D15cm) 759,000円 「シーシェル」(H17 × W55 × D12cm) 各913,000円/すべてボッテガ・ヴェネタ

CLARINS SKIN AUTHORITY

待望の美容液ファンデーションがついに完成

クラランスのアイコン美容液「ダブル セラム」から同コンセプトのファンデーションが誕生。美容液同様の二相式フォーミュラを採用し、これまでのベースメイクの常識を覆す次世代ファンデーションだ。

Photograph: Fumito Shibasaki (Donna) Text: Yumiko Kizu Direction: Kaori Takagiwa



左: 少量ならミディアムカバレッジ、重ね付けすればハイカバレッジと仕上がりは自在。色調、明度、アンダートーンの調整を重ね、グローバルでは全37色を展開。「ダブル セラム ファンデーション」全6色30ml 9,900円
右: 皮脂膜を模倣した水分7:油分3の黄金バランスで厳選配合された植物成分が健やかな肌に導く。ファンデーションとの併せ使いがおすすめ。「ダブル セラム ADC」50ml 17,600円/ともにクラランス

名品美容液から生まれた、肌を育てる*1ファンデーション

1985年に誕生した「ダブル セラム」が名品とされる理由、それは文字どおり、水と油の二相処方を採用した革新性だ。バイオミメティクス(生体模倣)に基づき皮脂膜同様に水分と油分で美容液を設計するうえで、植物美容学のバイオニアとしては水溶性成分と油性成分を別々にすることで、植物成分を安定した状態で肌に届けられる—そう考えた創業者のジャック・クルタン・クラランスは2つのボトルに分けてセット販売。その後サイエンス&テクノロジーの発達とともに「ダブル セラム」も進化を遂げ、1996年の第4世代では二相構造式ボトルに刷新。そして現在では第9世代までアップグレードしている。

今やメゾンを代表するシグネチャー美容液のファンデーションと聞けば、当然ながら期待も高まる。カラー相には、ウコンエキス*2やプロコラーゲンペプチド*2など美容液のキー成分と顔料をバランスよく配合。オイルフリーのセラム相には、美容液の根幹を成す植物エキス*2などに加え、パバイン配合で肌のなめらかさにアプローチ。この二相を直前に混ぜ合わせることで、それぞれが含有する成分の効果が発揮される。カラー相とセラム相の配合比率は2:1。その絶妙なバランスが、生命力あふれるツヤ肌に育ててくれる*1。香りはセラムと同じ、日本人調香師が開発したフレッシュフルーティフローラル。軽やかな甘さが、纏うたびに心を明るく解き放つ。

*1 メーキャップ効果による *2 整肌成分

エモーションとエビデンス、その両立がアヴェダの目指す植物力

ハーバリストの母と靴職人の父のもと、オーストリアに生まれたホースト・レッケルバックが1978年にミネアポリスで創設した「アヴェダ」。彼のカリスマ性は、1987年に出版した著書『Rejuvenation: A Wellness Guide for Women and Men』からも明らかのように、ウエルネスやサステナビリティにおける本質的価値を時代に先駆けて見据えていた点にある。

創業者の哲学は今なおしっかりと息づいており、2021年には全製品から動物由来成分を一切排除、2023年にはB CORP認証を取得。今年1月に登場した新スキンケアライン「アドバンスド ボタニカル キネティクス」では、成分技術開発をコアから刷新。植物本来の力を尊重しサステナビリティを大前提としながらも、先進のバイオサイエンスと融合させて植物由来成分を設計しなおすという新たなプロジェクトを始動した。創業50周年に向け、「アヴェダ」は次なる進化のフェーズへと歩みを進めている。

独自のバイオ技術で得た植物由来成分(保湿成分)を製品の特性に合わせて配合。洗顔料はグレープフルーツ、ゼラニウムなどの精油を用いたシトラスハーバルの香り、その他4品はオレンジ、ラベンダーなどのシトラスフローラルの香り。アドバンスド ボタニカル キネティクスシリーズ全5品。左から、「ミルクローション」50ml 10,120円、「クリーム」50ml 12,980円(リフィル 11,000円)、「エッセンス ローション」200ml 9,020円、「セラム」30ml 12,100円、「マイクロ ビュリファイニング クレンジング ムース」150ml 7,700円/すべてアヴェダ



AVEDA NEO-REJUVENATION

植物のバイオニアが挑んだ次世代スキンケア

「アヴェダ」とはサンスクリット語で「すべての智慧」。創業以来真摯に取り組んできたからこそ知り尽くす植物の力をバイオテクノロジーと融合させ、深化したホリスティックビューティを新スキンケアラインで実現した。

Photograph: Fumito Shibasaki (Donna) Text: Yumiko Kizu Direction: Kaori Takagiwa

**花のある暮らしを
新築や引っ越しのお祝いに**

バカラのDNAを受け継ぐ「ルクソール」は、ダイヤモンド形の装飾が曲面を彩って。「アイII」は2025年に誕生したシリーズ。万華鏡のような輝きが空間を幻想的に演出する。キャンドルホルダーはオブジェやフラワーベースとしても。左から、ルクソール ラウンドベース クリア 150 (H15 × 直径7.9cm) 41,800円、ルクソール ラウンドベース レッド 150 (H15 × 直径7.9cm) 66,000円、アイII ベース (H25 × 直径10.4cm) 297,000円、アイII キャンドルホルダー (H8.1 × 直径7.6cm) 55,000円 / すべてバカラ (バカラショップ 丸の内)



**BACCARAT
LIGHT UP YOUR LIFE**

煌めくギフトに思いを託して

バカラのクリスタルの唯一無二の輝きは、いつもの時間を特別なものへと変えてくれる。
お世話になったあの人や新生活を迎えるあの人に、お祝いや感謝の気持ちを込めて贈りたい。

Photograph: Fumito Shibasaki (Donna) Styling: Yuuka Maruyama (Makiura Office) Text: Kaori Shimura Direction: Kaori Takagiwa



**誰もが喜ぶタンブラーに
春色のコースターを添えて**

1975年に発表された「ハーモニー」のタンブラーは、円柱形のフォルムに細く施されたカットが端麗な印象。「オクトゴン コースター」の新色はグリーン、モスグリーン、オレンジ、レッドの春らしい4色セット。美しいグラデーションの漆塗りに上に、バカラのアイコンのひとつであるオクトゴンの刻印が施されて。ハーモニー タンブラー (H9.6 × 直径7.55cm) 各17,600円、オクトゴン コースター インテンス 4色セット (直径11cm) 30,800円 / すべてバカラ (バカラショップ 丸の内)



**日常から離れて
癒やされる時間を贈る**

自然の四元素に着想を得たアロマキャンドル。容器はバカラクリスタルをアップサイクルしたもの。フランス産ワックスを使用したキャンドルの優雅な香りが癒やしのひとときへと誘ってくれる。幸運を運ぶ蝶のオブジェには、未来への飛躍の願いを託したい。4エレメンツ アロマキャンドル バステル 左から、タンドル プリュイエール、イヴレス デシーム、ソレイユ ドール、プレ デュ ラック (H10.5 × 直径8.2cm) 各33,000円、ラッキーパタフライ イリゼクリア (H6.5cm) 35,200円 / すべてバカラ (バカラショップ 丸の内)

クリスタルのイノセントな輝きが、人生の門出を祝福



二人の新たなスタートを ペアグラスでお祝い

日本のライフスタイルに合わせて開発された「グラスジャパン」は細身のデザインがエレガント。サイズが小さめで、和のテーブルにもマッチする。幾重にも重なる花卉の美をベヴェルカットで表現した新作の「ダリア」のタンブラーは、2026年の年号の刻印入りで記念日のギフトに最適。左から、グラスジャパン ダリア 2客セット(H11×直径7cm) 16,500円、ダリア タンブラー 2026 2客セット 年号入り (H8.5cm×直径9.6cm) 22,000円/すべてバカラ(バカラショップ 丸の内)



ビジネスシーンのギフトには 勝負強さを象徴する馬を

コレクションアイテムとして支持を集めるバカラの干支オーナメントは、大切な人へのギフトにも。2026年の干支であり、飛躍や勝負強さを象徴する馬のモチーフは、昇進や転職といったビジネスシーンでのお祝いに喜ばれる縁起物。生命力と躍動感に満ちた「いななく馬」のオーナメントには、「すべてうまくいく」という願いを託して。左から、干支 馬 クリア (H12.5cm) 71,500円、いななく馬 (H20.1cm) 110,000円/ともにバカラ(バカラショップ 丸の内)

宝尽くし文様の新作まねき猫は 開店や商売繁盛の縁起物に

縁起のよい宝物のモチーフを集めた吉祥文様「宝尽くし」を金で描いた新作のまねき猫。商売繁盛のほか、住まいの新築などのお祝いにもぴったり。漆塗りが美しい大小のトレイは、バカラの象徴であるレッドオクトゴンにインスパイアされた「オクトゴン」コレクション。まねき猫 宝尽くし (H10.3cm) 132,000円(3月末発売予定)、オクトゴン トレイ S アイボリー (H3×W23×D33cm) 55,000円、オクトゴン トレイ M アイボリー (H4×W32×D46cm) 88,000円/すべてバカラ(バカラショップ 丸の内)



色あせない思い出を 永遠の輝きに閉じ込めて

ギフトとして人気の「アイ フォトフレーム」。特徴的なダイヤモンドカットが施されたフレームが、大切な思い出のワンシーンをアートへと昇華させてくれる。カットが光の反射を生み出すテーブルランプは、マルセル・ワンドースによるデザイン。充電式コードレスタイプで手軽に持ち運べるのもうれしい。アイ フォトフレーム レッド (H23.5cm) 132,000円、ニューアンティーク クロシェット ノマド ランプ (H17.5×直径13.3cm) 242,000円/ともにバカラ(バカラショップ 丸の内)



KYOTOGRAPHIE 2026

日本最大規模の国際写真祭 KYOTOGRAPHIE 2026が開幕

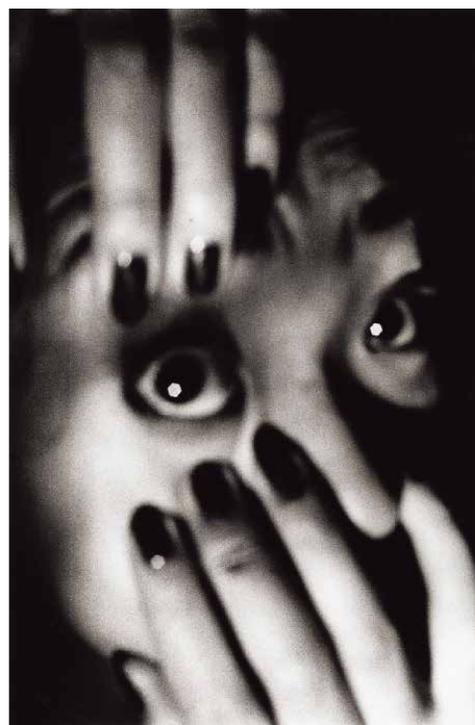
京都の春の風物詩、「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」。
第14回となる今回のテーマは「EDGE(エッジ)」。注目のポイント
共同創設者、共同代表の仲西祐介さんに伺った。

Realization: Kaori Shimura

寺院などの歴史的な建造物から現代建築まで、京都各地で縦横無
尽に展開される「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」。今年のテーマ
「EDGE(エッジ)」に込めた思いを仲西さんはこう語る。

「昨今世界で起きていることを見ていくと、デモクラシーもキャピ
タリズムも崩壊に向かっていて、右でも左でもない、行き先がわか
らない状態になっているように感じます。それはまさにエッジに立
たされた状態で、ネガティブに考えると『どん詰まり』、ポジティブに
考えると『変化のチャンス』でもあります。今回はそのポジティブな
可能性についてみなさんと一緒に考えたいと思います」

期間中は森山大道が主な表現媒体とした出版物にフォーカスする
大回顧展、オランダが誇るアントン・コービンの選集的回顧展など、
世界8カ国14組の作家の展覧会が開かれる。近年世界のアート界か
ら注目を集める南アフリカの世代が異なる3人の展覧会や、南アフリ
カをテーマにしたフォトブックのアーカイブ展にも注目したい。



From Letter to St. Louis, 1990. © Daido Moriyama/Daido Moriyama Photo Foundation

「展覧会という形式の見せ方は、あまり好きじゃない」という森山大道。
彼が『今まででいちばん自分の表現を理解した展示』と語ったブラジル人
チアゴ・ノゲイラのキュレーションによる世界巡回展を新たに構築した、
ニューエディションを公開します」(仲西さん・以下同)

Oedipus, 2021 © Linder, Courtesy of the artist and Modern Art, London



「リンダー・スターリングはイギリスで最も
影響力があり、型破りな現代アーティスト
のひとり。1970年代後半のパンクシーン
から登場した彼女は、写真やフォトモン
タージュを大胆に用い、女性に関する既成概
念に挑み、インスピレーションを与え、再定
義し続けています。英国アートシーンにお
いてフェミニズムの先駆者として独自の地
位を築いてきた彼女の存在を強く裏づける
作品が日本初公開されます」

Glas, 2022 © Leobang Kanyo



「世界が注目する南アフリカ人現代アー
ティスト、レボハン・ハンイエの日本初の展
覧会。彼女の表現は演劇性、自伝性、詩
的表現を重ね合わせ、写真にとどまら
ず、シルエット、アニメーション、テキス
タイル、時として彫刻的なインスタレー
ションへと広がります。南アフリカの個
人的な記憶の断片が、より広い政治的かつ
ポストコロニアルな現実と重なり合う、層
状の世界を作りあげています」



© Sari Shibata

「昨年の本祭でルイナール・ジ
ャパン・アワードを受賞し、秋
にフランスのシャンパーニュ地
方で滞在制作に挑んだ柴田早
理。自身が生まれ育った富山
県南砺市の山村とフランスの
ブドウ畑を繋ぎ、太陽が降り
注ぐ自然の中で女性が生まれ
て老いていくまでの命のサイ
クルを見事に表現しました」

「フランス人アーティスト、ジ
ュリエット・アニエルの作品
は人間と自然、そしてその間
にある目に見えない力を探り
ながら、私たちが深いところ
で結びつけているものにとら
え、小さな人間の身体もまた
宇宙を構成するひとつの重要
な断片なのだということを思
い起こさせます」



Juliette Agnel / courtesy Galerie Clémentine de la Féronnière & Photo Days

information

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026
会期: 2026年4月18日(土)~5月17日(日) 会場: 京都市内各所
<https://www.kyotographie.jp/>

CHANEL SHARE THE MOMENT

と き トップランナーが対峙する時間

日常を輝かせる時間の過ごし方、自然との対話。
各界のトップを走り続ける5人の表現者がプロフェッショナルなスピリットを語る。

HIROKAZU KOREEDA



是
枝
裕
和

Film Director, Screenwriter

時が巡り、違う場所へと着地する醍醐味

四季を撮り続ける理由、円環する時間へのまなざし、そして、自身に残された制作の時間。
映画監督として成熟期にある是枝裕和が、時間と人生について語った。

Text: Atsuko Tatsuta

「J12 キャリバー 12.1」時計 (ケース径38mm、高耐性ブラックセラミック×SS、自動巻き) 1,386,000円/シャネル (シャネル カスタマー ケア センター)
ジャケット 58,300円、Tシャツ 23,100円/ともにヨココ サカモト ☎Tel 03-5430-9577

映画は2時間ほどの作品の中で、人の一生を描いたり、あるいは一瞬を引き伸ばしたりもできる。そういう意味で、映画監督は自由自在に「時間」を構築できる存在といえるかもしれない。脚本家でもある映画監督、是枝裕和における「時間」とは？

— 作品における時間の描き方をどう意識していますか。

是枝: 演出が「空間」を演出するものだとすると、編集は「時間」を演出していくもの。日常から切り離された「映画館」という空間で、約2時間の間、現実とは別の時間のリズムを経験して、外に出たときにその日常の時間の流れがちょっと異質に感じられる。そういう体験をしてもらえればいいな、と考えています。

— タルコフスキー監督は「映画は時間を彫刻する」という表現を使っていましたが、同じような意識はありますか。

是枝: かっていいですね(笑)。「時間を彫刻する」。ただ、僕の場合は、時間を自由自在にコントロールしないですよ。

— そこにこだわりがある、ということですか？

是枝: あります。時間は一方向にしか流れないという、自分なりのルールを決めているんです。最近はいろいろな世界が行ったり来たりするような時間軸の使い方が流行りかもしれないですが、そういうのは僕はやらない。

— では、ご自身の作品の中で「時間」を意識した作品は？

是枝: ストレートにやっているのは、『誰も知らない』と『海街diary』だと思います。『海街』はまさに「ダイアリー」だから、1年という時間の流れの中で描く。時が直線的に流れずに「円を描く」。円を描いて1年経ったときに、季節が巡ってちょっと違うところに着地する。で、人生ってそういうもんだっていう。

循環的に流れる時間を撮る

— 海外の批評家からは、是枝作品は「小津(安二郎)的」という言葉でしばしば表現されます。

是枝: デビュー当時は、単純に技術不足でカット割りができなかった。それで「ちゃんとカットを割れるようになりたい」と勉強直したときに、参考にしたのは成瀬(巳喜男)だった。海外の人が僕の作品を見て「小津だ」って言うのは、ほとんどは誤解だと思います。でも、どこかに共通点を見出す人からの、作品の中に「不在の死者」がいて、その死者を巡る物語が中心にあるっていう指摘に対しては、「確かに僕もそういう物語が好きで書いている」と思う。

— 「小津的」と言われることには納得していない、と。

是枝: 納得はしないですが、意識することもあります。たぶん、それがいちばん顕著に出たのが『海街diary』。人ではなく、時間というものに作品の視座がある。時間は過去から未来に流れるものではなくて「巡る」のだという感覚を、僕は小津の、特に『麦秋』とかには感じるんです。『海街』も「これは四姉妹物語ではなく、街と時間の話なのだ」と感じたときに、じゃあこの作品は小津的なものかもしれないと思って、『麦秋』を何度も見直しました。円環的に時間が流れていくっていう感覚はかなり前からあって、自分がその発想でものづくりをしているってことに気づき始めたのがこの10年、15年ですね。

— 時が巡るということだと、是枝さんの作品は「四季を撮る」ことでも知られています。

今年公開の『ルックバック』も四季を撮ることが重要な作品ですね。

是枝: 例えば、人の背中を撮っていても、そこに射す光が季節によって4つ変わる。物語は10年くらいの時間の流れですけど、それを「言葉」ではなく表現していこうと思ったときに、ものを書く音と、そこに降り注



Netflixシリーズ『阿修羅のごとく』のメイキング画像。Netflixにて世界独占配信。

ぐ光の変化を撮る。主人公たちを取り巻いている時間の流れが、この映画の主演という感覚なんです。

— 時間をテーマにしている映画で、好きな作品はありますか。

是枝: 最近、見直した『ある日どこかで』はタイムスリップものだけれど、面白かった。本来、時の流れているのは人間にはどうしようもない残酷なものじゃないですか。それを前提として受け入れているかどうか。最近の映画は受け入れずに乗り越えてしまうでしょ？ それはあまり好きじゃないですね。時間はもっと残酷なものでもいい。

残された20年で、あと8本は撮りたい

— 今、監督人生の中でどのような位置にいますか。

是枝: 20代で一本長編映画を撮ろうと思っていましたが、撮れませんでした(笑)。山中真雄は28歳で死んでるんですよ。だから20代で撮らないとダメだと思ってました。今は、頑張れば撮りたいものは撮れるということまで来たという感じ。ここからは、時間との戦いが始まる。映画監督は肉体労働なので、体力が落ちてきたら撮れないものが出てくる。今の体力と経験値を念頭に置いたうえで、撮れる作品は何かを探りながら、挑んでみるつもりです。

— 具体的なビジョンも既にあるのでしょうか。

是枝: この先どうしても撮りたいと思っているものが、少なく見積もっても8本ぐらいあるんです。でもそれを全部やろうと思うと15年とか20年かかる。そうすると80歳を超えるから、順番をつけなくちゃいけない。「これは75歳でも撮れるな」とか「これは60代のうちにやっとな」と、たぶん体がついてこないな」とか今考えてます。

— 人生のタイムマネジメントを考え始めたきっかけは？

是枝: コロナ禍のときかな。映画も全部止まったでしょう。あ、こういう不測の事態でキャリアって簡単に止まる、これは計画的にならねばならない、と思って。そんなに簡単じゃないですよ、本当に。何が起きるかわかりませんから。でも、山田(洋次)さんも現役で撮っている。本当に頭が下がります。

— 最後に、時計はどんなときにつけますか。

是枝: 普段、仕事中は時計はつけません。あらたまって外出するときだけ。なので、ちょっと特別感があってドキドキします。自分にとっては精神的なものなんです。

PROFILE:

1962年生まれ。1995年『幻の光』で長編映画監督デビュー。国際映画祭で数々の受賞歴があり、2018年には『万引き家族』でカンヌ国際映画祭パルムドール賞(最高賞)を受賞し、名実ともに日本を代表する監督となった。今年『箱の中の羊』『ルックバック』の公開を控えている。

AI HASHIMOTO



橋本愛

Actor

人間の存在感を作品に昇華する、多彩な表現者

俳優、モデル、執筆家と、境界を自由に行き来して、さまざまな顔を見せる橋本愛。独自の感性にあふれた発言や、多面的な演技を披露する表現者として注目される彼女の現在地と未来との向き合い方を探った。

Text: Mitsuko Watanabe

「J12 キャリバー 12.2」時計(ケース径33mm、高耐久性ホワイトセラミック×SS、自動巻き) 1,325,500円、「ココクラッシュ」耳上から、イヤカフ(BG) 244,200円、イヤカフ(WG) 256,300円、イヤリング(WG×BG×ダイヤモンド) 995,500円、チョーカー(BG) 5,445,000円、ブレスレット(BG) 1,518,000円、人差し指リング(WG) 781,000円、中指リング(BG×WG×ダイヤモンド) 660,000円、ニット(参考商品) / すべてシャネル(シャネル カスタマー ケア センター) デニム/スタイリスト私物

は、「無自覚に人を傷つけてしまうことを減らしたい」ということ。映画や本などの創作に触れて、実体験がなくても他者の人生や感情を知れることはすごいことだと思っていて、自分もそれで少し優しくおおらかになれた、ということを積み重ねてきたので、誰か一人にでもそういう価値観を共有できる機会をつくれればいいな、という願いは常にあります。

—— 映画を監督することにも興味？

橋本： ジェンダーや人種の違いによって起こる問題に関心があって、それを少しでも前に進めたいという欲求があります。今は、その流れが逆に動く変化があるので、それをなんとか食い止めたい。そのためにも、じっくり時間をかけてちゃんといいものを作りたいと思いますね。

時間をかけてにじみ出る生き様を

—— 「死に際を考える」というお話がありました。

橋本： 20代の頃は「明日死ぬか」が基準だったんですよ(笑)。それが「老後」に伸びたところは変わりましたね。今は、70、80歳くらいの自分を思い浮かべてみて、「このままでは面白くない!」と感じると、グワーって行動したりしています。

—— 80歳の自分は、仕事をしていると思いますか。

橋本： 願わくば、という感じです。俳優の道に進んでよかったと思うのは、何歳になっても可能性が広がることです。魅力的なおばあさん役をたくさん演じてこられた憧れの俳優さんもたくさんいます。年齢を重ねるほどその人自身の生き様がにじみ出るので、できれば私も、人生をまっとうするときに自分にしか出せないものを携えたおばあさんになりたい。この先、どういう俳優になるのかな、と考えられるのが幸せだなと思います。樹木希林さんは私にとってとても大きな存在で、圧倒的な存在感と説得力、そして魔力がある。そういう人間に時間をかけてなっていきたい、と憧れますね。

—— 時間をかけてこそたどり着ける豊かさもありますね。

今、着用しているJ12は私物ですが、お気に入りのポイントは？

橋本： 等身大の自分にすごくフィットするデザインなので、無理なく自分とともに時間を刻んでくれる感じがします。カジュアルで肩肘張らず、傷がつきにくいので、気負わずに日常的につけられる点も気に入っています。大人っぽいイメージをもっていたことも多く、それはありがたいことなのですが、実は普段の私はアクティブなこともすごく好きなんですよ。



FODオリジナルドラマ『にこたま』 浅尾温子役 ©渡辺ペコ/講談社/フジテレビ

PROFILE:

2010年の映画『告白』に出演し注目を浴び、2012年の映画『桐島、部活やめるってよ』では日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。2025年にNHK大河ドラマ『べらぼう〜篤重栄華乃夢壱〜』に出演。独自の感性を生かしたファッション、書評、コラムなどの連載でも幅広く活躍中。

1月に30歳になったばかりの橋本愛は、クールな表情でレンズにまっすぐな眼差しを向けていた。10代でデビューし、自分と向き合い続けた20代の時間は、彼女に何をもたらしたのか。年齢をことさらに語ることに不粋を知りながら、節目の歳に感じた変化について聞いてみた。

「自分を見つめる時間」が変化を生む

—— 30歳の誕生日を迎えて、感じたことはありますか。

橋本： 自分が何歳かより、何年生きてきたかを指標にすることが多くて、「30年生きたな。残りあと何年かな」と、人生の終わりを俯瞰して見るために年齢を使う感じがすね。また、たまたまこのタイミングだったのだとは思いますが、自然な変化に気づきやすくなったな、とは感じます。これまでの10年とまったく違う10年になる予感があります。

—— どのような変化に気づいたのでしょうか。

橋本： 外交的になりました。今までは自分の内面に潜って言葉を探したり、創作や夢想したりするのが好きだったのですが、今は外に目を向けて、エネルギーを交換している感じです。ある程度、自分を見つめてきた時間が熟してきたのかもしれない。

—— 俳優、モデル、執筆家など、仕事のジャンルによって、かける時間の質や長さは違いますか？

橋本： まったく違いますね。ファッション撮影のときは体をいちばん意識するので、ピラティスなどで体の芯を保つための時間をかけるようにしています。撮影当日は衣装やメイクなど、そのときの空気感を瞬時につかむ感じです。書くことに関しては短時間で集中するタイプで、アドレナリンなどで活性化させたエネルギーを文章に乗せる、という感覚。自分の思いを純度高く出すようにしているので、文章はあえてきれいに整えないようにしています。俳優の仕事が、いちばん時間がかかります。台本を読み込んで、一人の人間を自分の体と心に植えつけていかなければ、「その人」の言葉も出てこないし、体も動かないですから。現場ではそれを追体験する感覚なので、少し落ち着くんです。

—— 演じる人物の時間や年齢の変化はどう表現するのでしょうか。

橋本： 私は時間の変化を表現するのが好きで、いつも意識するのは、その人の中で変わったものと変わらないものを同時に存在させるということです。自分自身も、10年前の20歳の頃と今の自分では、9割9分くらい別人だと思うほど変化してきたけれど、ほんの少しだけつながっているものも実感していて、その部分はすごく大事にしていますね。

「後悔せずにやり遂げる」のが、生きる理由

—— 未来への抱負は抱くほうですか。

橋本： あまり人生のプランを考えたことがなくて……。でも、何歳で結婚して子どもを産んで、こんな仕事を達成してなどと目標を定めると、叶わなかったときに傷ついてしまう臆病さもあるので、そういう決め方はしませんね。選択肢が多いときに、「死に際」を想像して判断することはよくあります。「それをやらずに死んだらどう思うだろう」と。「別に気にしない」と思ったら考えるのをやめて、なりゆきにまかせます。どうしても後悔するなと思ったことは、やり遂げるのが生きる理由のような気がするので。自分の好きなことや興味のあることを、自分の人生でなんとか遂行していくのが生まれた意味なのかなと感じます。

—— 仕事で未来に何か残したいと感じることはありますか。

橋本： 勝手かもしれないけれど、あまり何かを残したいとは思ってなくて、今、自分が何をしたいかにフォーカスしています。特に考えるの

SOMEGORO ICHIKAWA

市川染五郎



Kabuki Actor

舞台に立つ——それが何より「自由な」時間

20歳を迎え、歌舞伎だけでなく、映画やドラマでもその魅力を放つ市川染五郎。プライベートでもJ12を愛用しているという彼が、さまざまな「時間」について語った。

Text: Kyoko Tomikawa (emu)

「J12 キャリバー 12.2」時計 (ケース径33mm、高耐久性ブラックセラミック×SS、自動巻き) 1,325,500円、
「ココ クラッシュ」イヤリング (WG) 753,500円/ともにシャネル (シャネル カスタマー ケア センター)
シャツ44,000円/ガラアペント ©サーディヴィジョンピーアール Tel 03-6427-9087

透き通るような肌にオールブラックの装い。手元には、黒いフェイスの時計が輝く。20歳を迎えてもなお、アンドロジナスな空気感を漂わせる市川染五郎。しかし、カメラに向けられる視線は鋭く、歌舞伎の舞台で鍛えた体はしなやかにポーズを決める——。歌舞伎界の未来を担う彼に、役者として、個人としての時間の過ごし方を聞いた。

——歌舞伎では今と異なる時代の役を演じることも多いと思います。

染五郎： 台本にないなげない草や、その時代に普通に使われていた言葉など、演目の時代背景をきちんと理解していないと演じきれない部分があるのが歌舞伎だと思っています。その時代の人物になりきるのが難しい一方、自分自身とかけ離れている人物を演じるのが、刺激的で楽しくもあります。また、化粧や衣装でビジュアル的にも大きく変わるのが面白いところ。僕の場合、かつらをつけて化粧をして、舞台に出る準備が整った瞬間に、役のスイッチが入ります。

——歌舞伎の公演は1カ月間、ほぼ休みなしです。限られた時間の中で、次の公演に向けてどのように役作りをしていますか。

染五郎： 毎月の舞台が終わると4、5日間の休みがあるのですが、休みとはいえないのが実情です。千秋楽の翌日から稽古に入って、そのまま次の舞台に立つという繰り返しです。演目によって時代やジャンルが違うので、前の公演中に研究して積み上げておかないと、体に役が染み込まない。千秋楽後の最初の稽古は、役者たちがそれまでに積み上げてきたものをひとつにまとめる機会、といえわかりやすいでしょうか。なので、舞台に立ちながら、次の役のことが浮かんでしまうこともあり、うっかり別のセリフが出そうになることもあります(笑)。

染五郎という器に、今できることをすべて注ぐ

——歌舞伎役者としての道のりの中で、どのような時間を過ごしてきましたか。

染五郎： 常に歌舞伎が周りにあるなかで育ちました。幼い子どもがヒーローに憧れるように、祖父や父、先輩方が演じる役に憧れてきました。気がつくと、自分も演じる側になっていたという感じです。もちろん、役を演じる中で葛藤はありますが、好きなことをできるのはありがたいことだと思っています。

——八代目市川染五郎の名跡を継いでいくということ、どう受け止めていますか。

染五郎： 八代目というよりも、「市川染五郎」という名前を預かっているという感覚です。自分が市川染五郎という「器」でいる間に、どれだけいろいろなものを注げるか。それを常に意識しています。名前だけでなく、芸としても「染五郎」を預かって、それを次に渡していく。それが歌舞伎の襲名のシステムでもあり、大事なところだと思います。

——2025年は、祖父・松本白鸚さん、父・松本幸四郎さんとの共演が3度ありました。楽屋では白鸚さんと一緒だったようですが、どんな時間を過ごしたのでしょうか。

染五郎： 祖父が現役で、私が祖父と同じ舞台に立っているのは奇跡に近いこと。楽屋で一緒に過ごせること自体がありたく、大切なひとと

きだと感じました。父もいつも丁寧に役を教えてくれ、やはりありがたいと思っています。二人とは普段から楽屋でも家でも芝居の話しかないので、楽屋だからといって特別な時間を過ごすわけではなく、常に祖父であり父親であり、師匠とともにいるという感覚です。

——映画やドラマでも活躍されています。歌舞伎の役作りと映像作品の役作りとは、違いはありますか？

染五郎： 役作りという意味ではどちらもまったく変わりはありませんが、演じる瞬間に出す力の入れ方は、すごく違うと思います。舞台ではお客さまに向かって演じているので、舞台と客席の間にある種の境界線があるように感じるのですが、映像ではスタッフのみなさんが役者と同じ空間にいる、という感覚。スタッフさんが舞台上がってきて、隣で観ているように感じます。幼い頃から舞台上に立ってきた身としては、お客さまの存在が見えないカメラに向かって演技するのは、いまだに不思議な印象で……。でも、違う手法を学ぶ機会をいただけるのはありがたいです。

——昨年20歳を迎え、時間の過ごし方に変化はありましたか。

染五郎： あまり変わりませぬ。年齢に関係なく、その瞬間にどれだけのことを吸収して、自分のものにできるかを常に考えています。

——誕生日も特別なことはなかったか？

染五郎： はい、淡々と過ごしました(笑)。

劇場全体のエネルギーが、解放感につながる

——もしもまとまった休みが取れたら、どんな時間を過ごしますか。

染五郎： 海外など、遠くへ行きたいですね。実は小さい頃からニューヨークに憧れていて、数年前にようやく訪問できました。4泊程度でしたが、毎日朝から晩までびっしりスケジュールを組んで、ブロードウェイや美術館に行つて。本場のエンターテインメントに触れ、いろいろな刺激を得られたことは、役者としても大きな収穫でした。いつかまとまった休みが取れたら、もう少し時間に余裕をもって、ニューヨークの街並みを楽しみたいと思います。

——ご自身にとって「自由な時間」とは？

染五郎： 舞台に立っているときですね、その時間がいちばん自由だと思います。一緒にいる役者さんたちからも、お客さまからもエネルギーをいただいている感じ。自分が出したエネルギーをみなさんと交換し合える舞台は、とても自分を解放してくれる時間だと思います。

——今日着用している時計は私物のJ12ですが、どんなところが気に入っていますか。

染五郎： 全身黒でまとめるファッションが好みなので、この時計はいつでも楽しめると思い、選びました。もう少し大きいタイプ(38mm径)も素敵でしたが、いまの自分には小さいほう(33mm径)がしっくりくるかな、と。素材もデザインも日常になじむので、普段使いとして愛用していますが、スーツを着るときなど自分の気持ちを引き締めたいときにつけると、さらに身も心も締まるように感じます。頼りになる1本ですね。

PROFILE:

十代目松本幸四郎の長男。祖父は二代目松本白鸚。2007年、歌舞伎座「俠春春雨傘」で初お目見え。09年、歌舞伎座「門出祝寿連獅子」で四代目松本金太郎を名乗り初舞台。18年、歌舞伎座高麗屋三代襲名披露興行「勳進帳」源義経ほかで八代目市川染五郎を襲名。3月26日まで歌舞伎座にて上演中の「三月大歌舞伎」に出演中。

CHANMINA



ち
ゃ
ん
み
な

Singer-Songwriter, Rapper

未来は自分で作る——その想いを胸に

ラッパー、シンガーとして、自身の経験から紡がれる言葉と圧倒的な表現力で、時代の共感を集めるちゃんみな。多くの人をエンパワーするその姿勢は、どのような時間と人生観から生まれるのか。

Text: Makiko Awata

「J12 キャリバー 12.2」時計 (ケース径33mm、高耐久性ホワイトセラミック×SS×マザー オブ パール×ダイヤモンド、自動巻き) 1,628,000円、
「ココ クラッシュ」プレスレット (BG) 1,518,000円、プレスレット (WG) 951,500円、左手 人差し指リング (WG×ダイヤモンド) 1,045,000円、
薬指リング (WG×ダイヤモンド) 3,179,000円、右手 薬指リング (WG×ダイヤモンド) 2,002,000円、ブラウス、デニム (ともに参考商品) /すべてシャネル(シャネル カスタマー ケア センター)

いんです。こうあるべき、という考えもなく、私が経験した感情、必要だと思ったことを作品に残しているだけ。ただ、自分の生き様や背中を見せることは意識しています。背伸びせず、正直に、私らしく生きる姿を、音楽を通して見せたい。その結果として、曲を聴いてくれた若い世代の方が何かを感じ取ってくれているのなら、すごく嬉しいですね。

—— 人生で大切にしている言葉はありますか。

ちゃんみな： 「明日は来るけど先が来ると思うな」という言葉が、どんなときも私を奮い立たせてくれます。普通に過ごしていれば、「明日」って、みんなに平等に来るじゃないですか。でも“その先”は努力しないと来ないんです。目の前の一つひとつを本気でやり続けて、はじめて先につながるし、その先を作るのは自分しかない。その努力が心に余裕を生みます。この言葉には、ガブリエル シャネルの生き方から受けた影響も重なっています。

—— どのような影響を受けたのでしょうか。

ちゃんみな： 小学校3年生のときに彼女の伝記を読んで、生まれて初めて「この人の背中を見習いたい」って思いました。何度打たれても立ち上がる姿に、これが“強さ”なんだと感じました。ちょうどいじめを受けていた時期で、誰かに打ちめされても「先があるから立ち上がろう」と選べたのは、その本のおかげでした。これまでのキャリアでも、反骨心を胸に何度も立ち上がったことが、今につながっていると思います。だからシャネルを身につけるたび、その信念を思い出してパワーをもらえます。

2026年は新しいことに挑戦する年

—— 神秘的力を信じたガブリエル シャネルは、数字の5やコメント(彗星)などを特別なシンボルとして愛していました。
ちゃんみなさんにとってのラッキーモチーフとは。

ちゃんみな： ダイヤモンドとパールです。ライブの日も含めて、ほぼ毎日身につけています。ダイヤモンドは、アーティストとしての誕生日である4月2日の誕生石でもありますし、「削られて初めて輝く宝石」というところにも美しさを感じます。パールは母の影響です。最初に母から受け継いだ宝石がパールで、身支度をしてパールを纏うときの母の手がすごく綺麗だったのを今でも覚えていて、あとは寅年なのでタイガー。似ているともよく言われます(笑)。

Photograph: Seitaro Tanska



2025年に開催した単独公演『AREA OF DIAMOND 3』のライブシーンより。

—— 愛用されているJ12の時計にも、ダイヤモンドとマザー オブ パールが使われていますね。

ちゃんみな： そうなんです、まさに私にとって理想的な一本です。2019年にJ12と出会い、セラミック素材の斬新さに驚いて以来、ずっと欲しいと心に留めていた時計でした。ありがたいことに昨年、27歳の誕生日にシャネルさんからお祝いとしていただいたんです。文字盤にマザー オブ パールが使われていると知ったとき、ちょうどマザー(母)になったばかりの自分と重なって、運命を感じました。

—— 最後に、変化・進化することを恐れない
ちゃんみなさんが、今年チャレンジしたいことは。

ちゃんみな： 2026年は新しいことに挑戦する年と決めています。7月には初の東京ドームライブを予定しているので、今から楽しみです。

作詞作曲からトラック制作、ミュージックビデオやステージ演出に至るまでを自ら手がけるちゃんみな。自身のアーティスト活動を軸に、ガールズグループHANAのプロデュース、さらに2026年1月にはセルフプロデュース型アーティストが所属するレーベル「NO LABEL ARTISTS」を設立するなど、その表現領域は広がり続けている。カリスマ的な魅力を宿す、今最も目が離せない存在のひとりだ。

—— 小学生の頃からアーティストになるという夢を掲げ、その目標に向かって緻密な人生設計を描いてきたそうですね。

ちゃんみな： 10代でこれを成し遂げる、20代ではここまで行きたい、30代は……というふうに、人生で選択したいことを決めた大きな設計図があります。もちろん細かいところはその都度調整しますが、自分で決めた選択に沿って、導かれるように人生を進めている感覚です。長いスパンで未来を見据えながら、今日という1日を全力で生きる。その両軸を意識して過ごしています。

—— デビューから10年。キャリアの中で、最も勇気が必要だった決断は何ですか。

ちゃんみな： 最近、Netflixで『白と黒のスプーン〜料理階級戦争〜』や『メイクアップ・スター』のようなサバイバル番組を観て、私にとってそれは「高校生ラップ選手権」だったなと思いました。自分の持っているものをすべて曝け出して評価される、そんな未知な環境に自ら飛び込むわけですから。出演直前は正直すごく嫌で、本当に怖かったです。でも、スカイダイビングと同じで、勇気を出して行ってしまうあとは落ちるだけ。飛ぶまでがいちばん怖い。今は、あのとき飛び込んでよかったと心から思っています。

—— 活動の幅を大きく広げる一方、2024年には出産という転機も迎えられました。キャリアも育児もフル稼働の多忙な日々の中、ご自身にとって「自由な時間」とは。

ちゃんみな： 寝る前のひとときですね。1日のやる事が全部終わって、誰にも引き留められず、自分の好きなことに集中できる時間。日記を書いたり、映画を観たり、本を読んだり。いちばんリラックスできます。たまに仕事の電話が来ることもありますが、気分がいいので出ちゃいます(笑)。子どもが生まれてからは、完全に子ども中心の生活で、スケジュールを整えるのは難しいです。でも今はそれも愛おしい。何が起きるかわからない中で臨機応変に対応するのは自分の性格に合っているし、振り回されている状況も楽しめています。

—— 年齢や経験を経て、時間に対する意識に変化はありますか。

ちゃんみな： 大きくは変わっていないですね。これまで過ごしたすべての時間が必要だったと思っているので。強いて言えば、睡眠をきちんと取るようになったこと。人間ドックに行くようになったこと(笑)。

「明日は来るけど先が来ると思うな」の言葉を胸に

—— 自らの痛みや弱さを昇華した楽曲が、自分を愛することを肯定してくれると、多くの人を勇気づけています。

次世代に伝えたいメッセージはありますか？

ちゃんみな： 特別に何かを伝えようとして曲を作っているわけではな

PROFILE:

ラッパー/シンガー。YouTubeでの総再生回数は10億回を超える。2024年に第一子を出産。同年ガールズグループオーディションプロジェクト「No No Girls」のプロデューサーを務めた。同プロジェクトから生まれたHANAのプロデューサーとしても活躍。2026年1月、TVアニメ『推しの子』第3期OP主題歌「TEST ME」をリリース。

TAKUYA HANEDA

羽
根
田
卓
也



Canoe Slalom Athlete

激流の中で磨かれた強さとしなやかさ

2016年のリオオリンピックで3位に輝き、カヌー競技で日本初のメダルを獲得した羽根田卓也。以来、フロントランナーとして活躍を続ける彼が語る、自然や競技と対峙するなかで培ってきた時間の重み。

Text: Junko Hayashida

「J12 キャリバー 12.1」(ケース径38mm、高耐性ホワイトセラミック×SS、自動巻き) 1,386,000円、
「ココ クラッシュ」リング (WG) 555,500円、ネックレス (WG) 852,500円/すべてシャネル(シャネル カスタマー ケア センター)
Tシャツ/スタイリスト私物

38歳となった現在も、日本カヌー界のトッププレーヤーとして不動の地位を確立している羽根田卓也。9歳で競技を始めてから、現役生活は29年にも及び、多くの時間をカヌーとともに過ごしてきた。

— 長きにわたる現役生活の中で、時間への考え方は変わりましたか。

羽根田： 考え方に変化はありませんが、時間の使い方や日々の選択の仕方は変わりました。知識や経験が増えるほど、自分にとって何が大切でどこにエネルギーを注ぐべきかが、より具体化してきました。その結果、取捨選択が上手にできるようになり、競技に対する向き合い方だけでなく、人生に対する向き合い方も確実に変わってきていると感じています。

— 時間の使い方はどのように変化したのでしょうか？

羽根田： 我々の世界では大会というわかりやすい目標があって、そこに向かうまでに与えられた時間は決まっています。そのため、この時間をどう効率的に使っていくかというのは、日々心がけていることです。自分が持っている時間もリソースも限られていますので、目標達成のためにそれらをどう注ぐかを考えることは、パフォーマンスを発揮し、結果をつかみ取るうえでとても大切です。

— 競技への向き合い方はどう変化しましたか。

羽根田： 若い頃はすべてにおいて視野が狭かった。ただ、若いときはそれも大事で、ひとつのことにフォーカスしているからこそ生まれるエネルギーもあるわけです。一方、今は物事を少し離れたところから俯瞰できるようになり、以前よりも楽観的になりました。これは人生においても、オリンピックなどの大舞台においても、自分のペースを保つのに非常に役立っています。

— その楽観性は、大舞台でどのように生きているのでしょうか。

羽根田： 僕が行っているカヌースラロームという競技は、急流に設置されたゲートを決められた方向と順番で通過し、タイムを競うものです。これは言い訳にするつもりはないのですが、ときには自然が要因で結果が左右されることもあります。でも、若いときは知識も経験も少ないので、ひとつの失敗を正面からズドンと受け止めてしまっていた。自分がいけないんじゃないかと引きずってしまって、メンタルがつかなくなることもありました。

時間をかけて解像度を高めることの重要性

— スランプを感じることもあった、ということですか？

羽根田： 長く競技を続けているといろいろなフェーズがあります。うまくいくときもあれば、うまくいかないときもある。ただ、スランプというのはトリックワードで、その言葉だけで片づけるのは危険だと思っています。何が原因なのかを粘り強く掘り下げて解像度を高めていくと、様々なことへの向き合い方がわかるようになりますし、必ずしも自分のせいではないと楽観視できるようになる。いい意味での余裕を持つことは、競技において欠かせない要素だと感じています。

— そのような考えに至る中で、自分を最も成長させてくれたことは何でしょうか。

羽根田： 18歳でスロバキアに単身で渡ったことです。競技においてもチャレンジングなことでしたし、言葉や日常生活での苦労も非常に多かったのですが、世界の強豪選手や彼らを育てたコーチと同じフィールドに身を置くことができ、たくさんのことを学びました。異国の地で生活し、競技だけでなく様々な価値観を知れたことは、今の自分の人生観にもつながっていると思っています。



羽根田は安定性よりも俊敏性やスピードに優れたカヌーを選び、世界に挑んでいる。

— 今、自分の自由になる時間があるとしたら何をしたいですか。

羽根田： 世界に旅をして、自然を見に行き、そこで暮らしている動物たちに会いたいですね。

— 日本カヌー界の第一人者として、競技を発展させるうえで、今後の時間をどのように考えていますか。

羽根田： 大会に向けてトレーニングをするのは競技者として当たり前ですが、それ以外にジュニアの育成など、もっと大きなビジョンでカヌー界をどう盛り上げて前進させていくかは常に考えています。キャリアを重ねてきた自分にしかできないこともまだまだ残されていると思うので、そういったものに向き合いながら進んでいきたいと思っています。

— では、カヌースラロームの見どころを教えてください。

羽根田： 激流の中で行われる非常にダイナミックな競技で、タイム競技特有のスリルもあり、見ていてとても面白いと思います。ときにはミリ単位でゲートに近づき、身体をのけぞらせたりしながらギリギリを攻めることもあります。激流をうまく乗りこなしていく技術などにも注目していただきたいです。

不利な流れも受け入れるしなやかさこそ強さ

— 今期、J12は「揺るぎない強さの中に宿る、しなやかさ」をコピーに掲げています。激流に抗うだけでなく、乗りこなすしなやかさも必要なカヌースラロームと、つながる部分がありそうですね。

羽根田： たしかに、この競技は激流に立ち向かっていると見られがちですが、激流を真正面から受けて跳ね返すことはできません。これは競技を続けてきて気づいたことですが、自分の力ではどうにもならないことがやはりたくさんあって、ときには不利な流れも受け入れて、それを自分のものにしていくことが求められます。自分にとって不利な激流、有利な激流をどう受け入れて対処していくか。次の一手のために、いかに最善の選択をするかは常に心がけていますし、そのための臨機応変なしなやかさこそが、自然を相手にする競技では欠かせないと感じています。そういったことを強さと例えるのであれば、自然を相手にするカヌー競技の中に、その答えがあるのかもしれないですね。

— 最後に、J12の魅力をお願いします。

羽根田： 長年愛用していますが、セラミックという素材においても、デザインにおいても不変であり、シャネルならではのフィロソフィーを感じています。僕にとっては欠かせないパートナーです。

PROFILE:

1987年生まれ。父と兄の影響で9歳からカヌーを始める。2008年五輪日本代表初選出。2016年のリオ五輪ではこの競技でアジア人初となる銅メダルを獲得。2024年パリ五輪で5大会連続五輪出場を果たす。現在ミキハウス所属。2026年愛知県名古屋アジア大会を目指す。

FPM MILANO

FPM MILANO & GLOBE-TROTTER

英国とイタリアが目指すスペシャルラゲッジが登場

機能美を誇る、ミラノ生まれのラゲッジブランド、エフピーエム ミラノ。
 ヴィクトリア朝時代に誕生して以来、英国を代表するスーツケースブランドとなったグローブ・トロッター。
 イタリアのモダンな感性と、英国のヘリテージが融合した、特別なコラボレーションによる限定コレクションが到着。

Text: Mika Koyanagi



「どう旅するかが重要」という信念が導いた、美しき邂逅

1946年、ラゲッジとトラベルアクセサリーのブランドとして、ミラノで誕生したエフピーエム ミラノ。創業者エンリコ・フレムダーの先見性と審美眼が詰まったラゲッジは、世界中のトラベラーから支持されている。一方、1897年創立のグローブ・トロッターは、エリザベス女王やウィンストン・チャーチルが愛用したことで知られ、現在でも多くのファンを持つメゾンだ。今回のコラボレーションは、2つのメゾンが持つ、「旅とは単なる場所の移動ではない」という共通認識からスタート。前者はデザインの明快さ、素材の革新、技術というイタリアの視点を、後者は一目でわかるフォルム、年月を経てなお美しく旅ができるラゲッジという伝統に根差した視点をそれぞれ提供する。

エフピーエム ミラノを象徴する「Bank」ラインに、グローブ・トロッターのファイバーボード・パネルを組み合わせ、信頼感、手触りの良さ、機能性を備えた。ベルトやハンドルにはそれぞれのメゾンのディテールが反映されている。5つのサイズで、2色展開。全世界限定340個を販売。「スピナー55Mキャリーオン」各418,000円/ともにFPM Milano(FPM Milano表参道 FLAGSHIP STORE)

LIMITED CONCEPT STORE

東名阪の百貨店にてリミテッド・コンセプト・ストアを開催

4月8日(水)～松坂屋名古屋店 北館1F イベントスペース
 4月8日(水)～4月14日(火) 大丸東京店 1F イベントスペース
 4月29日(水)～5月5日(火) 大阪高島屋 1F グッドショックプレイス



セラミック製のケース、ブレスレットがモダンでスポーティな世界を演出するシャネルの「J12」。
 ブラックのフェイスにホワイトのインデックスを組み合わせて視認性も良好だ。シャネルが資本参加するスイスのムーブメント製造会社ケニッシン製の「キャリバー 12.1」を搭載。
 「J12 キャリバー 12.1」時計(ケース径38mm、高耐久性ブラックセラミック×SS、自動巻き) 1,386,000円/シャネル(シャネル カスタマー ケア センター)

Photograph: TISCH(MARE), SHINMEI(SEPT/P.17, P.28) Styling: Naoki Ikeda(P.18, P.26), Yuka Maruyama(makiura office/P.20), Nao Nakanishi(P.22), Rena Senba(P.24)
 Hair & Make-up: Nanako Azuma(P.18), Yumiko Kawamata(Happ's/P.22), Yousuke Akizuki(P.26)
 Hair: Keiko Tada(mod's hair/P.20), Yuta Kitamura(P.24) Make-up: Yuka Washizu(beauty direction/P.20), Yuko Nozaki(P.24)
 Direction: Kaori Takagiwa

※この特集記事で使用している略字は以下の通りです。YG(イエローゴールド)、WG(ホワイトゴールド)、BG(ベージュゴールド)、SS(ステンレススチール)

本インタビューの動画と時計の詳細は
 デジタル版 THE NIKKEI MAGAZINE 広告特集からご覧いただけます。



新しい風を纏って

目まぐるしいほどのデザイナーの交代劇が起き、ラグジュアリーの新定義が迫られる時代へと突入。新体制で発表されたコレクションは、ヘリテージの継承とアップデートを見事に叶えた、今こそ着たいルックばかり。ファッションの持つエネルギーを味方に、一歩先の新しい自分へ。

Photograph: Yusuke Miyazaki (SEPT)
Styling: Miyuki Uesugi (sense of humour)
Hair: Kenichi (sense of humour)
Make-up: Yumi Endo (eight peace)
Model: Valeria Buldini (Donna)
Realization: Shiho Amano



CHANEL

メゾンのコードを更新し
現代的なエレガンスへと昇華

ガブリエル・シャネルが恋人の服から着想を得て革新的なスタイルを築いたスピリットを、新クリエイティブ・ディレクター、マチュール・ブレイジャーらしくモダンに再解釈したセットアップ。マニッシュなボクシーシルエットのジャケットに、アンダーウェアをちらりと見せたローライズのストレートパンツが新鮮。ジャケット1,122,000円、パンツ597,300円、イヤリング143,000円、ベルト165,000円、シューズ217,800円(すべて予定価格) / すべてシャネル ☎ シャネル カスタマー ケア センター Tel 0120-525-519

JIL SANDER

上品でコンテンポラリーな
純粋さへの回帰

シモーネ・ベロッティによる新生ジル・サンダーが幕開け。コンパクトなニットに合わせたのは、立体的なパターンとプレスが施されたスカート。構築的なアプローチと細部に宿る職人技で、クリーンでありながら美しいフォルムを極めたブランドのDNAへのオマージュを感じる。セーター162,800円、スカート231,000円 / ともにジル・サンダー ☎ ジルサンダー・ジャパン Tel 0120-998-519



NEW AGE NEW STAGE



GUCCI

新たな視点と美学で グッチらしさを探求

イタリア語で「家族」を意味する「La Famiglia」コレクションを通して、ブランドの多面的な魅力にフォーカスを当てた新アーティスティック・ディレクターのデムナ・GGパターンで全身を統一したルックは、まさに「らしさ」の象徴。キャンパスのコートには艶やかなコーティングが施され、ユニークな存在感を強く放っている。コート(ベルト付き) 1,320,000円、ヘッドバンド 101,200円、ブーツ(仕様変更あり) 346,500円/すべてグッチ ©グッチ クライアントサービス Tel 0120-99-2177



GIVENCHY

知性とパワフルさを備えた モダンな女性像を確立

女性が思い描くフェミニンさを色濃く打ち出した、サラ・バートのセカンドコレクション。襟の開き具合が絶妙な仕立ての美しい白シャツに、裏地の白とのコントラストが効いたブラックのスカートが映えて。凛とした力強さに、曲線を描いたラッフルスリットが軽やかさを添えてくれる。シャツ225,500円、スカート545,600円、イヤリング148,500円/すべてジバンシィ by サラ・バートン ©ジバンシィ ジャパン Tel 0120-218-025

BOTTEGA VENETA

職人技に裏打ちされた
真のラグジュアリー

新しくクリエイティブ・ディレクターに就任したルイズ・トロッターのカラーが、鮮明に現れたボッテガ・ヴェネタ。ニュアンスのあるトーンでまとめた端正なジャケットスタイルには、日常に根差した実用性と美しさが共存し、洗練されたエレガンスが匂い立つ。ジャケット 579,700円、中に着たトップス 220,000円、パンツ（参考カラー）260,700円、肩に掛けたセーター359,700円／すべてボッテガ・ヴェネタ @ボッテガ・ヴェネタ ジャパン Tel 0120-60-1966



BALENCIAGA

遊び心のあるシルエットに
アイデンティティが宿る

創業者クリストバル・バレンシアガのアイコンックなフォルムを現代的に甦らせた、新クリエイティブ・ディレクターのビエールパオロ・ピッチョーリ。カットとプロポーションで魅せるモノトーンルックは、トレーンのように長い裾が風をはらむトップスが主役級の存在感を発揮。Tシャツ（着丈に商品仕様変更あり）198,000円、パンツ198,000円、ロンググローブ161,700円、シューズ（参考カラー）177,100円（すべて予定価格）／すべてバレンシアガ @バレンシアガ クライアントサービス Tel 0120-992-136



WAKO × ASHOKA® ETERNAL TALISMAN

日常を輝かせるお守りジュエリー、アショカダイヤモンド

国内外の厳選されたジュエリーブランドを取り揃える銀座・和光。

なかでも人気を集めるオリジナルジュエリーは独創的なフォルムの「アショカダイヤモンド」。

身につける人をエンパワーメントするメッセージが込められたコレクションだ。

Photograph: Toshimasa Ohara(aosora) Text: Rica Ogura Direction: Kaori Takagiwa



ASHOKA® KNOCKIN'

幸福を呼び込むドアノッカー

古来、幸せを運び、魔除けになってきたドアノッカーをアショカダイヤモンドと自在に動く輪で表現。人生の新たな扉を叩き、未来に踏み出す人に捧げるラッキーモチーフに。左から、「ASHOKA® KNOCKIN'」ピアス (YG × ダイヤモンド) 1,133,000円 ネックレス (YG × ダイヤモンド) 656,700円 ピアス (PT × ダイヤモンド) 1,408,000円 ネックレス (PT × ダイヤモンド) 756,800円/すべて和光

アショカダイヤモンドは、62面体のファセットを持ち、ほかにはない2種類の異なる輝きが融合した特別なダイヤモンド。中心部は細長くすっきりしたカットで透明感をたたえ、丸みを帯びたコーナーは繊細かつ華やかな煌めきを放つファセットが施されているのが特徴だ。このダイヤモンドが誕生したのは1999年のこと。ニューヨークの名門宝石商、ウィリアム・ゴールドバーグ氏がインド南部のゴルコンダ地方で発見された41.37カラットのダイヤモンドを細部まで研究

して発明した。“アショカ”の名はインドの偉大な王にちなんでつけられたもの。日本では、「命のビザ」を発給してユダヤ人を救った杉原千畝氏の子孫が縁を結び、2015年から銀座・和光のみが直接の買い付けを許され、デザインから製作までを一貫して行い、オリジナルジュエリーに仕立てられる。独自の感性と、熟練の職人の繊細な手仕事が出会って生まれたモダンな造形は、時代を超えて愛されるタリスマンとなる。ぜひ、自分らしい1点を見つけてほしい。

ASHOKA® BAR

信念を持って努力する人を後押し

アショカダイヤモンドに華やぎを添えるメレダイヤモンドを連ねたシリーズ。透明感に満ちた輝きが一列に並ぶ様は、真っ直ぐに自分の信じる道を進む人を勇気づけてくれるよう。2本のネックレスを重ねつけるのもおすすめ。左から、「ASHOKA® BAR」ネックレス (YG × ダイヤモンド) 983,400円 ネックレス (PT × ダイヤモンド) 1,650,000円/ともに和光



ASHOKA® KYO

清らかで落ち着いた心境に導く

故事成語の「明鏡止水」がインスピレーション源となった、アショカダイヤモンドの輝きがサイドの地金に映り込むデザイン。心を沈め、前向きになってほしいという願いが込められている。左から、「ASHOKA® KYO」ネックレス (PT × ダイヤモンド) 804,100円 ネックレス (PT × ダイヤモンド) 1,452,000円 ネックレス (YG × ダイヤモンド) 953,700円/すべて和光

ASHOKA® KYO

スペシャルな職人技が息づく

アショカダイヤモンドのジュエリーは、細部まで卓越した技術が冴えわたるのも魅力のひとつ。このシリーズは、サイドに配された地金に山形のエッジをつけて磨き上げられているため、アショカダイヤモンドのシャープさがより引き立つ。リングはつけ心地のよさにもこだわっている。左から、「ASHOKA® KYO」リング (PT × ダイヤモンド) 2,530,000円 リング (PT × ダイヤモンド) 2,123,000円/ともに和光



REDEFINING BAGS & SHOES

マイスタイルにプラスする春のバッグ&シューズ

新しい季節の到来とともに、気になるのが最新バッグ&シューズ。
歴史あるメゾンのユニークな進化や、名品バッグの再解釈、完全な新モデルまで。
豊富なラインナップから選んで、毎日の着こなしをアップデートしたい。

Styling: Erina Ohama Text: Mika Koyanagi



1



2



3



5



6



8



7



9



10



4



5
GIVENCHY

モード感満点のデザインで
街を闊歩したい

幾何学的なシェイプとメタルチェーン付きジップクロージャーが目を引くバッグと、鋭角的なヒールがポイントのパンプスがエッジな気分へと誘う。バッグ「ザ・スナッチ」(H20×W30×D13cm) 484,000円 シューズ「ブドワール フォールド」(ヒール6.5cm) 179,300円/ともにジバンシィ by サラ・バートン ©ジバンシィ ジャパン Tel 0120-218-025

6
FERRAGAMO

柔らかく美しいレザーを
心ゆくまで堪能

両サイドから包み込むようなデザインが、優しい抱擁を思わせるバッグ。新作は細いレザーを編み込んだ、職人技が際立つ仕上がり。大きなリボンがあしらわれたパンプスは安定の履き心地。バッグ「ハグ バッグ」(H25.5×W34×D15.5cm) 583,000円 シューズ「フェラガモ」(ヒール4cm) 137,500円/ともにフェラガモ ©フェラガモ・ジャパン Tel 0120-202-170

1
LOUIS VUITTON

祝祭感あふれる
モノグラム・キャンバス

今年、誕生130周年を迎えるモノグラム・キャンバスをヴィンテージ風に再解釈。モノグラム・キャンバスのストラップシューズも可憐。バッグ「スピーディ・バンドリエール 25」(H19×W25×D15cm) 416,900円 シューズ「ペラメリーゼーション」(ヒール0.5cm) 169,400円/ともにルイ・ヴィトン ©ルイ・ヴィトン クライアントサービス Tel 0120-00-1854

2
PRADA

デザインコードを凝縮した
スタイリッシュな相棒

ソフトなレザーと横長シルエットがエレガント。ベルトを想起させるバックル、トライアングルロゴなどアイコン的なディテールが随所に。レトロシックなパンプスとも好相性。バッグ「プラダ ボニー」(H15.5×W32×D12cm) 473,000円 シューズ「ヒール4.5cm」192,500円(ともに予定価格)/ともにプラダ ©プラダ クライアントサービス Tel 0120-45-1913

3
SAINT LAURENT

パリのエスプリが薫る
上品なヌーディカラー

アイコンバッグ「イカール」のエッセンスを継承したミニバージョン。コロシとしたフォルムにカサンドラロゴがアクセント。バッグ「ミニイカール」(H12×W19×D5cm) 429,000円 シューズ「パピロン ミュール」(ヒール6cm) 176,000円/ともにサンローラン パイアンソニー・ヴァカレロ ©サンローラン クライアントサービス Tel 0120-95-2746

4
GUCCI

アイコンのモチーフを
デムナらしくモダンナイズ

新アーティストック・ディレクター、デムナが手がけた新作バッグは名品をアップデート。ホースビット付きパンプスは、踵を折りたたんで履ける2WAY。バッグ「ジャッキー スリム」(H16×W28×D3.5cm) 341,000円 シューズ「グイットーリア」(ヒール5.5cm) 176,000円/ともにグッチ ©グッチ クライアントサービス Tel 0120-99-2177

7
CELINE

収納力とホールド感も満足
機能美が光る新作

2025年アーティストック・ディレクターに就任したマイケル・ライダーの手による新星。半月型に大きなフラップとトリオンフクロウジャが目印。バッグ「スモール ハーフムーン ソフト トリオンフ」(H13×W25×D5cm) 368,500円 シューズ「ヒール4cm」154,000円(ともに予定価格)/ともにセリーヌ ©セリーヌ ジャパン Tel 03-5414-1401

8
MIU MIU

デイリーに愛用したい
懐かしさもモダンな逸品

ポウリングバッグのシルエットから着想を得たバッグは、特徴的なラインとボリューム感が魅力。メッシュレザーのシューズと、レトロシックにまとめて。バッグ「ポー レザー バッグ」(H13×W30×D13.5cm) 423,500円 シューズ「ヒール8.5cm」236,500円(ともに予定価格)/ともにミュウミュウ ©ミュウミュウ クライアントサービス Tel 0120-45-1993

9
LOEWE

曲線と直線を
上質レザーで表現

「ハンモックバッグ」のディテールを受け継いだ万能モデル。縫い目を折り込んだステッチ&ターン構造が特徴。バッグ「ハンモック フリップ バッグ」(H22×W15×D22.5cm) 488,400円 シューズ「オリガミ フラップ パック パンプス」(ヒール7cm) 223,300円(ともに予定価格)/ともにロエベ ©ロエベ ジャパン クライアントサービス Tel 03-6215-6116

10
THE ROW

控えめながらも
圧倒的な存在感を放つブラック

光沢が美しいサドルグレインレザー製の折りたたまれたようなマチのデザインが生み出す洗練を極めたフォルム。シンプリシティを表現したパンプスとともに、ミニマルなスタイルを。バッグ「アグネス」(H25×W44.5×D22cm) 902,000円 シューズ「オルネラ パンプス」(ヒール9cm) 204,600円/ともにザ・ロウ ©ザ・ロウ・ジャパン Tel 03-4400-2656

TIME TO RECHARGE

心潤う、春のウェルネスステイ

新しい季節の到来に向けて、身も心も整えたい時期。リチャージやリフレッシュにぴったりの滞在先やプランをご紹介します。この春オープンのホテル情報もお見逃しなく。

Realization: Kaori Shimura



パーク ハイアット 東京
Park Hyatt Tokyo

スパ&フィットネス施設「クラブ オン ザ パーク」は宿泊ゲストと会員のみが利用できる。

永遠の美が宿るリニューアル空間で、最新のスパメニューを堪能する

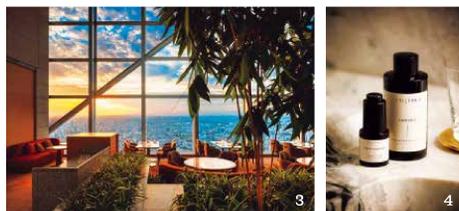
約1年半の全館改修を経て、昨年12月に再オープン。ほぼスケルトンまで解体しながらも、復活後の共有部分は以前とまったく同じデザインを復元するという、ホテルが元来もつDNAへのリスペクトにあふれたプランで往年のファンにうれしい衝撃を与えた。一方で、客室と「ピーク ラウンジ&バー」「ジランドール by アラン デュカス」はモダンに刷新。かつてのマニッシュなムードに曲線美が加わり、邸宅のような居心地のよさが高まった。

デザインを手がけた建築デザイン事務所「ジュアン マンク」とアラン デュカス氏、ホテルの三者に共通するのは「目には見えない大切な時間をゲストに提供する者として、目に見えるすべにてこたわる」という実直な精神。宿

泊の際はおこもりステイを満喫しながら、随所に漂う美意識を肌で感じたい。

滞在時にぜひ予約したいのが、スパ&フィットネス施設「クラブ オン ザ パーク」でのトリートメントだ。今回、ホリスティックな新メニューが仲間入りした。例えば、脳と身体と心をつなげて深い癒やしへと導いていく「ヒーラー」は、オランダのオーガニックブランド「THE TIDES」を用いたボディスクラブとミネラルマスク、赤外線ヒートラップからスタート。スカルプマッサージや経絡マッサージ、音叉による調整などを交えながら全身のエネルギーを整えていく。施術後は頭も身体も内側からゆるみ、まるで生まれ変わったような軽やかさを味わえるだろう。

3. 直線が印象的だった「ピーク ラウンジ」には、曲線美がもたらされてエレガントなムードに。4. 「クラブ オン ザ パーク」の新メニューにはオランダ発の「THE TIDES」を採用。



© Yongjoon Choi



1. 美食の巨匠との提携によりフレンチブラスセリーとして生まれ変わった「ジランドール by アラン デュカス」。ボルドーを基調としたオープンな空間。2. 客室は温もりのある雰囲気リニューアル。



© Yongjoon Choi

information

tokyo.park.hyatt.jp



星のや竹富島
HOSHINOYA Taketomi Island

栄養価の高いハママーチやアントシアニンが豊富なハンダマなどを収穫。



1. 客室はヴィラタイプで全室南向き。南北のガラス戸を開けると心地よい風が吹き抜ける。2. リビングとつながる開放感あふれるスペースで、命草を浮かべたバスタイム。

3. 白砂が美しい「アイヤル浜」までは歩いてすぐ。太平洋から昇る美しい朝日に感動。
4. 国の「重要伝統的建造物群保存地区」に沿った琉球赤瓦の屋根のヴィラが並ぶ。



島の暮らしに思いを馳せ、ハーブの恵みを存分にいただく

サンゴ礁が隆起して生まれた竹富島は土壌も水資源も乏しく、農業には向いていない。しかし、そんな過酷な環境でも育つ穀物や野菜は生命力が強く、特に「命草」と呼ばれるハーブ類は健康の源として古くから親しまれてきた。

「星のや竹富島」では、2泊3日の滞在プログラム「命草ゆくい滞在」を5月末まで提供。冬から春にかけて旬を迎える命草を五感で満喫できる。例えば、敷地内の畑で命草について学びながら収穫する「畑あそび」。案内役の小山隼人さんは新卒で星野リゾートに入社し、こちらに着任して10年。島の長老から直々に指導を受け、伝統作物の栽培に励んでいる。畑で命草の香りをかぎ、ちぎって味わえば、その濃さに驚くだ

ろう。収穫後は摘みたての命草でお茶を淹れて一服、残りは部屋でハーブバスに。心地よい南風を感じながら命草のパワーを体感できる。

スパでのトリートメントはオイルとともに、長命草やフーチバーなどの命草を米粉に練り込んで蒸した温かいハーブボールを使用。全身がじんわりとほぐれていく。夕食は、1日目は数種類の命草を肉や海藻と味わう「命草薫る島鍋」を客室で。2日目は唯一無二の技法で命草をアレンジしたコース「島テロワール」をダイニングで堪能する。プランの空き時間はぜひ、近くの浜や満天の星の下で何もしない贅沢を味わいたい。竹富島のゆくい(=ゆっくり)な空気に包まれて、2泊3日以上での充足感を得られるはずだ。

「命草薫る島鍋」の具は命草のほか、牛肉、豚肉、野菜、島豆腐、八重山そばなど。ボリューム満点！



information

<https://hoshinoresorts.com/ja/hotels/hoshinoyatakotomijima/>



ローズウッド宮古島
ROSEWOOD MIYAKOJIMA

ビーチに面したインフィニティプール。プールサイドバー「YUKUU」もある。

メインダイニング&バーが誕生。非日常へのエスケープがより楽しみに

世界中の富裕層を惹きつけてやまない「ローズウッド」が宮古島に日本初進出を果たして一周年を迎えるこの春、メインレストランとバーがオープンする。島の伝統織物、宮古上布の原料となる植物の名を冠した「苧麻」では、こだわりの寿司、天ぷら、鉄板焼き、焼き鳥などの日本料理を提供。地元産を中心とする旬の食材の旨味が丁寧な仕込みと調理で最大限に引き出され、口福が広がる。「苧麻バー」では夕焼けに染まる絶景を眺めながら、バーマネージャーの井崎宇太郎さんが宮古島の歴史や文化に丁寧に向き合いながら生み出したカクテルを楽しみたい。繊細かつドラマチックな仕掛けと味わいが、島の物語を紡いでみせてくれる。

ローズウッドは米テキサスの大邸宅をホテルに生まれ変わらせたのが起源とあって、暮らすように滞在できるのが魅力。全室ヴィラタイプの客室は靴を脱いで上がるスタイルで、テラスとプライベートプールつき。レストランは「苧麻」のほか、イタリアンのオールデイダイニング「NAGI」やシーフードの「MAAS」もある。「Asaya Spa」で新メニューのホットストーン代わりに温めた貝殻を使うトリートメントを受ける、琉球空手のアクティビティで身体を動かしながら沖縄の風土に根づく精神性に触れるなど、この場所ならではの体験にも事欠かない。子ども向けのプログラムも充実していて、家族それぞれが自由に羽を伸ばせるとファミリーにも好評だ。



1. 「苧麻」では島の漁師が素潜りで捕らえた魚が提供されることも。2. 「苧麻バー」では井崎さんが島の文化や暮らしを実際に体験し、生み出したカクテルを堪能したい。



「Asaya Spa」では沖縄の伝統文化や島の海の恵みからインスピレーションを得たメニューを。

information
<https://www.rosewoodhotels.com/jp/miyakojima>

NEW OPEN

この春オープン! 注目のステイ先

ふふ 城ヶ島 海風のしらべ

FUFU JOGASHIMA
Melody of the Sea Breeze

大海原を望むリゾートで 天然温泉と三浦半島の美食を楽しむ

全室温泉つきのプライベート空間と地産地消の料理で人気のスモールラグジュアリーリゾート「ふふ」。2月27日、神奈川の三浦半島の南端に位置する城ヶ島に同ブランド初の海を望むリゾートが誕生した。客室の天然温泉からは壮大な海や隆起した岩など、雄大な自然をすぐ目の前に感じることができる。

レストラン「汐結 SHIOYUI」で味わえるのは、三浦半島の恵みと日本全国の旬の食材を生かした日本料理。ディナーコースでは小鉢料理やお造りなどに続き、新鮮な魚介の旨味がたっぷりの炭火焼き料理が登場する。炭火焼きならではの香りと音、また海と空の情景も相まって、非日常を五感で満喫する特別なひとときとなるに違いない。

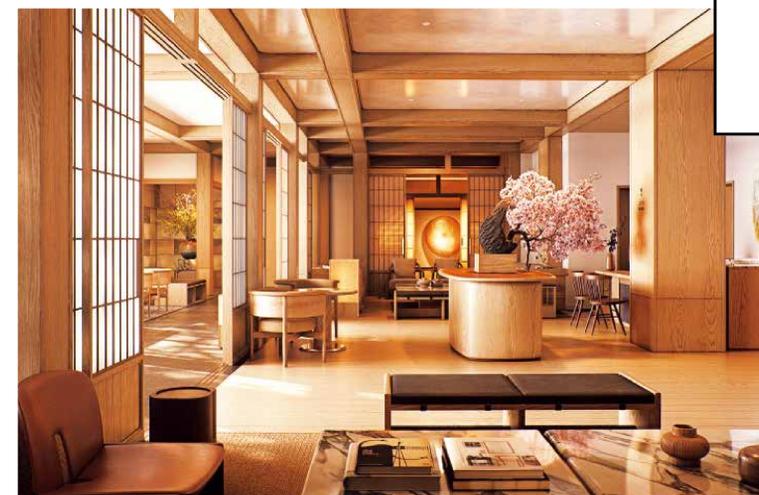
information
<https://fufujogashima.jp/>



1. 客室のインテリアは落ち着いたトーンで統一され、柔らかな印象。2. すべての客室に海を望む天然温泉が備えられているのがうれしい。3. 海の幸がたっぷりのディナーコース。

カペラ京都

Capella Kyoto



1. 共有スペース「リビングルーム」は和紙を用いた行灯風の光が印象的。2. 客室は全89室。坪庭のある「温泉スイート」では天然温泉を楽しむ。3. 中庭は幻想的なムード。



カペラホテルが京都に日本初上陸 米ソノマ発の美食とのコラボにも注目

シンガポール発のホテルブランド「カペラホテルズ&リゾート」が3月に日本初上陸。京都・東山の旧小学校跡地に建つ「カペラ京都」は、隈研吾建築都市設計事務所が建築を監修。伝統的な町家の精神を敬い、細い路地や障子越しの光といったエッセンスを取り入れた。中庭にはすぐ近くの宮川町歌舞練場に施されていた唐破風屋根の意匠が。旧小学校から外周に移植された木々とともにこの地の物語を受け継ぐ。

一方、館内にはカリフォルニア州ソノマのミシュラン3つ星レストランとの提携による「SoNoMa by SingleThread (想乃間 by シングルスレッド)」も。文化の継承と現代性の融合を目指す同ホテルのスピリットを味わいに出かけた。

information
<https://capellahotels.com/jp/capella-kyoto>



Pomellato